

会 議 議 事 録 (要旨)

1 会議名	令和 8 年度 第 1 回 長岡市地域公共交通協議会
2 開催日時	令和 8 年 6 月 24 日 (水曜日) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分
3 開催場所	長岡市消防本部 4 階 研修室
4 出席者名	太刀川会長、佐野副会長、大関委員、中山委員、橋本委員、小川委員、 小出委員、井上委員(代理：浅見様)、岩崎委員、南雲委員(代理：渡邊様)、 山本委員、小林委員、吉岡委員、大平委員、横澤委員 【欠席】大村委員
5 議決事項	(1) 令和 7 年度事業報告及び令和 7 年度歳入歳出決算報告 (2) 地域公共交通計画認定申請書及び地域公共交通計画の修正について
6 協議事項	(1) 地域内生活交通の利用状況 (2) 寺泊・和島地域デマンド型乗合タクシーにおける運行内容の見直しについて (3) 令和 8 年度事業内容
7 協議結果の概要	・議決事項(1)～(2)について承認された。
8 審議の内容	
【議決事項】	(1) 令和 7 年度事業報告及び令和 7 年度歳入歳出決算報告について
事務局	資料に基づき、議決事項 (1) を説明 (質疑応答なし)
会長	・議決事項 (1) を承認してよいか。 (承認された)
【議決事項】	(2) 地域公共交通計画認定申請書及び地域公共交通計画の修正について
事務局	資料に基づき、議決事項 (2) を説明 (質疑応答なし)
会長	・議決事項 (2) を承認してよいか。 (承認された)

【協議事項】	(1) 地域内生活交通の利用状況
事務局	資料に基づき、協議事項（1）を説明 （以下、質疑応答）
委員	・資料構成について、路線図と利用者数の推移等がページをまたがっており、内容を照合しながら確認する必要があるため分かりにくい。可能であれば、左側に路線図、右側に利用者数の推移等を配置するなど、路線の位置と利用状況を見開き又は同一ページで確認できる構成としてほしい。 ・1地域につき A3 1 ページ程度となってもよいので、今後資料を修正する際には、路線図と利用状況のつながりが分かるような見せ方を検討してほしい。
事務局	・次回以降の資料作成において、見開きで確認できる構成や、地域ごとの整理方法を工夫する。
副会長	・補助金の推移を資料に掲載したことは良いが、地域全体の合計だけではなく、路線ごとの内訳も示した方が、利用状況と財政負担の関係を把握しやすい。 ・小国地域の八王子線及び法末線については、前年度比で 50%減、44%減という割合も大きいですが、年間利用者数そのものが 1 桁又は 2 桁に近い水準であり、非常に少ない。利用者がいるため直ちに廃止等の判断は難しいが、0 人になるまで待つのではなく、別の運行形態を含めて検討すべき段階に入っているのではないかと。
事務局	・補助金の内訳については、路線ごとの状況が分かるよう、今後の資料で分かりやすく示すことを検討する。 ・八王子線及び法末線は山間部の路線であり、利用者数が非常に少なく、年間の稼働回数も限られている。現在は、必要な時のみタクシー事業者に運行を依頼する形としており、通常のタクシーに近い運用で対応しているため、市の負担や空運行への影響は大きくない。一方で、今後タクシー事業者による継続が困難となる可能性もあるため、その場合には別の手法も含めて検討していく。
【協議事項】	(2) 寺泊・和島地域デマンド型乗合タクシーにおける運行内容の見直しについて

事務局	資料に基づき、協議事項（2）を説明 （以下、質疑応答）
委員	・令和7年度の利用状況を示した資料では、地域内移動の運賃が片道200円と記載されている。一方で、今回の50ページの資料では、改定前の地域内運賃が400円のように読める。改定前後の運賃表の記載に誤りがないか確認してほしい。
事務局	・資料の記載に誤りがあった。改定前の運賃欄に改定後の料金を記載している部分があるため、訂正する。 ・改定前は、地域内移動が200円であり、地域をまたぐ移動についても、記載内容を確認のうえ正しい運賃に修正する。和島地域から分水方面への移動、寺泊地域から与板地域への移動等についても、改定前後の金額を整理して資料を訂正する。
【協議事項】	(3) 令和8年度事業内容
事務局	資料に基づき、協議事項（3）を説明 （質疑応答なし）
【その他】	(1) 長岡市地域公共交通計画策定準備について (2) キャッシュレス決済の利用実績について
事務局	資料に基づき、その他報告内容を説明。 （以下、補足説明、質疑応答）
委員	・この3月14日、一部の路線を除き越後交通が運行する全路線でタッチ決済をご利用いただけるようになった。1日当たりの利用件数は、3月は405件、4月は558件、5月は591件、6月は616円ということで、利用者の顕著な伸びが確認できている。 ・タッチ決済の利用が特に多い路線は、悠久山方面、千秋が原方面、江陽団地方面、長峰団地方面、長岡技術科学大学方面、関原ニュータウン方面。また、観光客の来訪がある寺泊方面も土日を中心に利用が見られる。 ・多頻度運行の路線については、現金や回数券による支払いからタッチ決済へ移り変わっている。回数券を買う手間が省けるほか、カード決済すればポイントが貯まるために日常生活から現金を使わない方が多くなっており、こういった生活スタイルの変化でタッチ決済の利用に移行していると考える。

	・くるりんについては、令和３年からＩＣカード決済を導入しており、この度のタッチ決済の導入により両方のキャッシュレス決済が利用できるようになった。令和６年度から令和７年度でキャッシュレス精算率が２％減少しているとあったが、今年５月の１か月に関しては２６．６％と、昨年度平均利用割合より２．５％上回っている状況。今後の利用水準に期待。 ・今後のタッチ決済利用拡大のため、これから開催される長岡まつり等イベント開催時に、バス利用者に対して広告としてうちわを配ったり、バス利用促進の目的も含めて、特定日における運賃割引、またある一定額を上限とした乗り放題のような施策を考えている。また、カード会社やイベント会社と連携して、アルコールが絡むイベントにおいてバスをご利用いただき、タッチ決済をご利用いただいた方には何か還元するような施策を実施したいと思っている。
副会長	・地域公共交通計画の策定に向けては、アンケートが重要な位置を占める。本来はアンケートで課題を把握し、その課題を解決する施策を考える流れとなるが、一定程度は施策を想定したうえでアンケートを設計する方法もある。 ・課題を拾うだけでなく、今後検討したい施策に結びつく設問となるよう、施策の方向性も踏まえた精度の高いアンケートとしてほしい。
事務局	・指摘のとおり、施策の方向性もイメージしながら、それにつながるアンケートとなるよう設計を検討する。
会長	・キャッシュレス決済について、高齢者への周知状況や使い勝手に関して、老人クラブ連合会としての意見や、周囲の反応があれば伺いたい。
委員	・老人クラブでは、バス利用やキャッシュレス決済に関する話題はあまり出ていない。会議等で出てくる話題は、会員をどのように増やすかという内容が中心であり、現時点ではバス利用やキャッシュレス決済について会話する機会は少ない。
会長	・高齢者に対しては、今後さらに周知が必要である。老人クラブ等の集まりの機会に、越後交通からキャッシュレス決済の使い方を説明してもらうなど、出前講座のような形で利便性を伝えることも有効ではないか。

委員	・全路線で利用できることや、現金を持たずに乗車できることを知ってもらうことで、高齢者にも利用しやすくなる可能性がある。 ・新潟県内ではタクシー乗務員の充足率が低下しており、地域による差も大きくなっていると感じている。 ・長岡市中心部では一定程度の営業体制を維持しているが、寺泊地区のように限られた事業者・車両で運行している地域もあり、公共交通の一部を担っているとはいえ、タクシー業界全体の体力は弱くなっている。 ・以前は 24 時間 365 日営業を掲げていたが、現在は新潟市、長岡市、上越市など一部地域でかろうじて維持している状況であり、中山間地域では 20 時や 22 時で営業を終了する地域もある。夜間の緊急時対応が手薄になっている点は大きな課題である。 ・運賃改定により、年金生活の高齢者が通院や買い物でタクシーを利用する際の負担が増えているが、従業員や会社を守るためにはやむを得ない面がある。 ・今ある交通資源をどのように維持するかは重要である一方、自動運転など、将来を見据えた夢のある計画も必要ではないか。 ・地域のコミュニティによる助け合いや共助の仕組みも公共交通の一部として考える必要があり、明るい将来を描けるような計画にしてほしい。
会長	・体力不足という点について、運転手不足によるものなのか、財務面によるものなのか、24 時間営業を含めて営業体制が縮小している要因を確認したい。 ・地域の共助については、今後、公共交通の一部として受け止めていく必要があると考えている。
委員	・タクシー事業者は財務面でも厳しく、運転士の高齢化も進んでいる。新潟県内の平均年齢は 60 歳を超えており、中山間地域ではさらに高い状況である。高齢者の雇用の受け皿になっている面もあるが、その分、長時間労働や夜間勤務が難しくなる。人数がいても夜間・休日の運行に対応できない場合があり、特に金曜夜など需要が集中する一方で、休日や祝日は手薄になりやすい。財務面と人員面の双方で体力不足となっている。
事務局	・今後、バスの維持が難しい地域では、タクシー事業者と連携し、バスを補完するフィーダー系統として国の補助制度を活用することも検討していきたい。

委員	・朝夕はバス、昼間はタクシーなど、それぞれの事業者の繁忙時間帯を踏まえて役割分担を工夫し、国の補助も活用しながら、タクシー事業者の体力回復にもつながる持続可能な交通体系を構築していく。 ・自動運転についても、近未来的な取組として、2、3年後には長岡の街なかを自動運転車両が走る姿を目指したい。雪などの課題はあるが、まずは取組を始めていく。
会長	・バス業界としてもキャッシュレス化を進めている。運賃収受に係る現金の取り扱いを減らすことは、運転者不足対策の一つとして、運転者の負担軽減にもつながる。 ・全国的にはフルキャッシュレスの路線も進められているが、地域の実情を踏まえると一気に移行することは難しい面もある。それでも、まずは実際に使ってもらい、利便性を体感してもらうことが利用拡大につながる。
副会長	・公共交通の議論は、利用者減少や担い手不足など、右肩下がりの厳しい内容になりがちである。もちろん足元の課題への対応は重要であるが、将来に向けた夢のある話も含め検討できると良い。

(以上)

■協議会の様子

